

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
23	杏林大学	現代行政学 B	進邦 徹夫 総合政策学部 教授	2	秋学期	木	15	10:40～12:10	杏林大学 井の頭キャンパス	1～2

【到達目標】

近年の行政改革の背景にあるものは何かを知る。
「新しい公共」とは何かを考える。

学位授与方針との関連:この科目は総合政策学部が学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、(1)多角的視野、(2)幅広い教養、を養うことを目的としている。

【授業の概要】

近年、行政をめぐる環境は大きく変化して来ています。NPM(New Public Management)論や、Governance 論といった議論に象徴されるように、行政だけではなく多くのアクターが統治に携わる政治・行政システムの萌芽が各地で見受けられます。
小泉政権の構造改革がそうであったように、多くの先進国において小さな政府を目指す傾向があります。その先行事例として知られるのが、1980年代にイギリスやアメリカ、ニュージーランドで展開された行政改革です。これらの行政改革を体系化したものを、NPM 論と言います。
また、これまで統治の主体は政府だけと捉えられてきましたが、個人やNPO、民間企業など多様なアクターが参加する統治のあり方をガバナンスと言います。
本講義では、近年の行政を分析する枠組みでもあり、規範的な概念でもある NPM 論とガバナンス論について、中央・地方の行政で実際に行われている改革との関連付けながら講述していきます。

【授業内容】

- 第1回：行政学Ⅱで何を学ぶか：NPM とは何か、行政学と行政経営論の相違[講義・質疑応答]
- 第2回：近年の行政改革とNPM の関係とは？：NPM による行政改革とこれまでの行政改革の違い、NPM による行政改革の意義[講義・質疑応答]
- 第3回：日本の行政改革史：戦前の行政整理、戦後行政改革と日本の財政、現代の行政改革諸課題[講義・質疑応答]
- 第4回：ガバナンス論とNPM：ガバナンス論と行政、ガバナンス論とNPM の相違[講義・質疑応答]
- 第5回：英米の行政改革とNPM：1980年代の英米の行財政状況、1980年代イギリスの行政改革、1980年代アメリカの行政改革[講義・質疑応答]
- 第6回：ローカルガバナンスの実際：NPM による行政改革の手法・期待される効果[講義・質疑応答]
- 第7回：NPM と自治体改革 1：NPM で何が変わるのか、透明性、説明責任、監視、参加[講義・質疑応答]
- 第8回：NPM と自治体改革 2：日本におけるPFI事業の展開、PFIとは何か、高知県医療センターの事例など[講義・質疑応答]
- 第9回：NPM と自治体改革 3：NPM と行政評価、政策・施策・事業の違い、アカウントビリティとレスポンスビリティ[講義・質疑応答]
- 第10回：NPM と市民参加：市民参加と協働、参加と評価[講義・質疑応答]
- 第11回：新しい公共とNPM：新しい公共とは何か、「公共」概念の変化[講義・質疑応答]
- 第12回：NPM と財政：ケインズ政策とNPM、国債依存財政からの脱却[講義・質疑応答]：
- 第13回：NPM の限界：NPM と自由主義、競争とセーフティーネット[講義・質疑応答]
- 第14回：これからの行政のあり方：積極財政か消極財政か、大きい政府か小さい政府か[講義・質疑応答]
- 第15回：総括：第1回から第15回の総まとめを行う[講義・質疑応答]

【成績評価方法】

- ① 絶対評価で採点します。
- ② 授業内テストと学期末課題で採点します。
授業内テストは持ち込み可で行いますので、問題に的確に答えていない場合は不採点とします。
学期末課題は、(課題に記載するかどうかは未定ですが)いくつかのキーワードを設定し、そのキーワードが理解され、文章が論理的に構成されているか(相手に伝えやすく書いているか)で採点します。

【教科書】

真淵勝『行政学案内』慈学社出版 2009年

【参考書、教材等】

※ この授業は、9/16(木)が初回です。